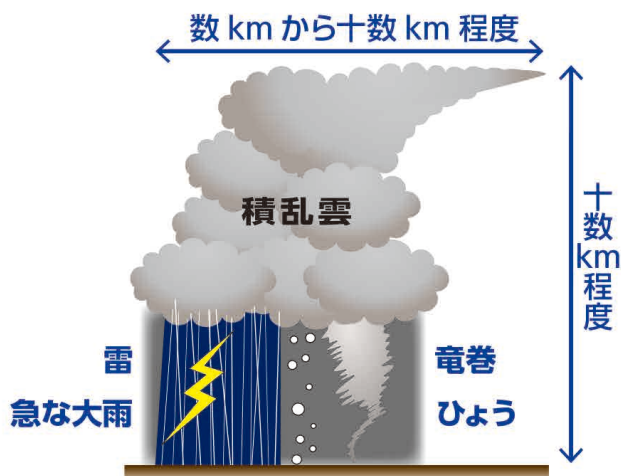


# 竜巻・雷対策

## 竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。



### 積乱雲が近づくサイン

真っ黒い雲が近づいてきた

急に暗くなった

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

大粒の雨やひょうが降り出した

**「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます！**

### 屋外では

- ・頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする
- ・物置や車庫、プレハブの中には入らない
- ・シャッターを閉める
- ・電柱や太い木には近づかない

### 屋内では

- ・窓から離れる
- ・窓やカーテンを閉める
- ・丈夫な机やテーブルの下に入って、身を小さくして頭を守る
- ・家の1階の窓の少ない部屋に移動する

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。  
このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

- ・雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。
- ・飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ・ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- ・気圧の変化で耳に異常を感じた。

竜巻注意情報(気象庁)

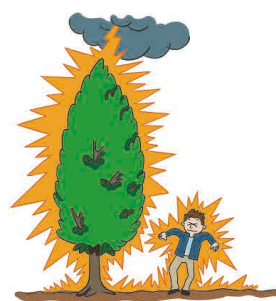


## 雷対策

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり、放電する現象です。

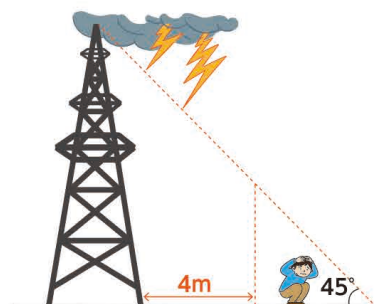
### 「雷」から身を守るには・・・

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けたところや、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。鉄筋コンクリートの建物、自動車(オープンカーは不可)、バス、列車の内部は比較的 안전한空間です。



### 安全な空間に避難できない場合は・・・

近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木のすべての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。



**遠くで音がしたらすでに危険な状態です！  
安全な場所へ移動しましょう。**

雷ナウキャスト(気象庁)





# 感染症対策

ウイルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には**

**危険な場所にいる人は避難することが原則**

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な行動をとりましょう。

## 知っておくべき **5** つのポイント

### 1 避難とは『難』を『避』けること

自宅での安全確保が可能な人は、感染のリスクを負ってまで避難場所に行く必要はありません。

### 2 避難先は学校・コミュニティセンターではありません

避難場所が過密状態となることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。

### 3 マスク・消毒液・体温計を携行しましょう

避難場所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自ら携行してください。

(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)

### 4 避難場所の変更・増設を確認

本書発行後に情報が変わる可能性があります。あらかじめ鹿沼市のホームページ等で確認してください。

### 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です

避難先への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

## 避難先では感染症予防に努めましょう

#### ● 避難場所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。避難場所に入る前に、発熱の有無など体調をチェックしましょう。

#### ● 手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

#### ● 咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていなくても屋内ではマスクを着用しましょう。

#### ● 換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策が必要です。

#### ● 「3密」(密閉・密集・密接)の回避

避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

#### ● 日々の健康状態をチェック

定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難場所のスタッフに相談しましょう。